

足らぬ足らぬは 工夫が足らぬ

小島 (堺市堺区)

終戦を迎えたのは中学2年生の時、尼崎の出屋敷の南の日立製作所に学徒動員で働いていました。父母と三男二女の7人家族で、父は和菓子屋を手広く営んでいました。母は百姓の出で、実家は農地の供用していました。

昭和4年生まれのと自分分は学徒動員、9年生まれの妹は集団疎開で氷上郡に、11年生まれの弟と13年生まれの妹は大阪の八尾の辺りに縁故疎開をしていました。父は兵隊に行っていないので、母は男手のない地元で世話役として走り回っていました。

家の中ではなく、近所の別荘地に町内で防空壕をつくっていました。尼崎は地盤が低いので掘った防空壕は水が溜まり居づらい場所でした。

敵機は、その爆音で種類が、爆弾の落下の音で、真上かそつでないかがわかりました。アメリカの飛行機は高い空を飛ぶので、日本の飛行機は迎撃に行けませんでした。焼夷弾も3月は油脂焼夷弾、6月には黄燐焼夷弾から、小型爆弾に変わっていききました。

小型爆弾の破片が、家の

私の戦争体験 (30)

寄稿

戦争体験手記募集を見て、お寄せいただいた手記を順次掲載しています。

中にいた父に当たり病院へ。その日はレントゲンが撮れずコードチンキを塗っただけで帰宅。2・3日後、レントゲンが撮れるようになったので検査すると、硬貨ぐらいの大きさの破片が肋骨の間に刺さっていました。手術は麻酔なしでした。

終戦後は食べるものがなく、疎開から戻ってきた妹たちはやせ細っていました。砂糖や小豆などの材料がなく和菓子の仕事はできなくなっていました。配給券だけでは家族が食べるのに全く足りず、着物などを食べ物と交換に行きました。警察に見つかったら没収されます。子どもだと見逃してくれたから、買い出しは私の役目でした。

戦争中は学徒動員の工場でも、お昼に米のご飯が出ていたのに、終戦後の方が食糧難は深刻でした。ひもじいと運動するな、動くなとなってくる。水泳の古橋廣之進の活躍に、一体何を食べてるんやろと思いました。

「足らぬ足らぬは工夫が足らぬ」こんな標語で戦争中から我慢を強いられてきました。普通の暮らしができたのは、昭和25年の朝鮮戦争の頃から。戦争の傷跡は重いものです。

小島さんより聞き取り、編集部でまとめました。

お楽しみクイズ クロスワードパズル

●応募方法／郵便ハガキにクイズの答え・住所・氏名・年齢・電話番号・友の会に対するご意見等を記入のうえ、
あて先／〒590-0821 堺市堺区大仙西町6丁184-2
友の会事務局「お楽しみクイズ」係あてにご郵送ください。
●しめきり／2019年6月12日(水)消印有効
●当選発表／厳正なる抽選の上、10人のかたに賞品(図書カード5000円分)を、賞品の発送をもって発表に替えてさせていただきます。
●クロスワードパズル解答はがきに書かれた「ご意見」は、紙面に掲載させていただきます。ご了承ください。

タテのキー

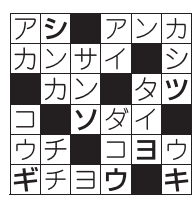
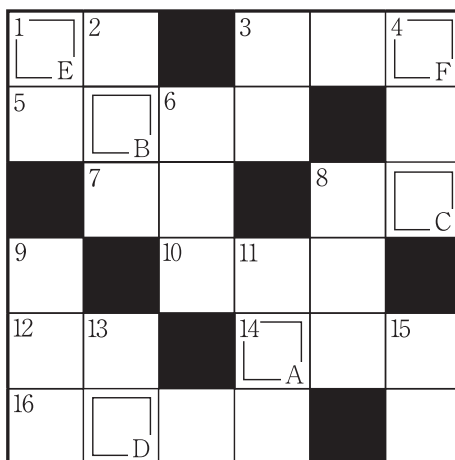
- ① 無体(強制する)と
② 人家。古ーカフェ

- ③ エトの第五
④ ジェラシー
⑤ 電光ーの早業
⑥ 各地にある日銀のー

ヨコのキー

- ① 無臭、乾燥
③ 青年よーを抱け
⑤ 隣りあい。ーする土地
⑦ カツレツの略
⑧ 使いみち。ー不明金
⑩ 舞台上で下手の対
⑫ 顔にーを塗る
⑭ あしたーになあれ
⑯ 労働省

カギを解き、二重ワクに入る文字をABC順に並べてできる言葉は何?



●3月号の答
「ソツギョウシキ(卒業式)」
●応募数/92通

短歌

愛犬の思い出残る遊歩道
花は咲けねど涙溢るる
小説を切りのいいところまでと
先が気になり又本開く

俳句

脚がまた攣りて目覚めの余寒かな
留守番の夫に言ふまじ花疲れ
つばくる(燕)や餌を求めて鳴きたけり

川柳

核禁の虹の架け橋世界中
令和には兵器に化ける消費税
平成では、法人税に化けてました。

*句を詠む時の情景や思いもお寄せください。
*俳句・短歌・川柳の次回締め切りは、2019年6月12日(水)です。
*特に、俳句・短歌のご応募お待ちしております。

手嶋喜代子 山本 直美
林 研 八木マキコ 手嶋 光生
堺谷九条男 横田 正

子育て世代実情調査にご協力ください!

これからの子どもの医療・子育てを真剣に国に考えてもらうため みなさんの生活の実情をしっかりと分析します

アンケート実施期間

2019年6月1日~30日

対象 3歳から中学3年生までのお子さんがおられる家庭です

スマートフォンでこの →
アプリから回答ください

300名様に
Quoカード500円分進呈



全日本民主医療機関連合会小児医療委員会

「風の伝言」プロジェクト 第3弾

病室に飾るアート作品を募集します

患者さんにエールを届けませんか

自分の部屋(病室)にお気に入りの作品を飾って欲しいと耳原総合病院は考えました。同時に患者やご家族・医療者に応援を届ける目的を持っています。

作品のコンセプトを病院のホスピタルアートコンセプトである「希望の灯」と統一し、作品を追加募集します。ご協力をお願いします。

- 絵画・写真・切絵・版画・押花・布・イラストなど「希望の灯」をコンセプトとした未発表作品
- A4サイズ内 210mm×297mm 厚さ制限2mm
- 点数制限 お一人様 応募5点まで
- 納品期間 2019年5月30日
- 応募対象 耳原総合病院のホスピタルアートコンセプトにご賛同いただく方々
- 展示場所 耳原総合病院、病室及びラウンジ等
- 企画 アート委員会
- 送付先・問い合わせ 品質管理部 虎頭まで



作品の1例